

# ★対談 サツマイモ資料館



初代館長の山田英次氏

人もいれば、まずいものを食わせて政府に恨みを持つてる人もいる。その思い入れをしゃべるとみんな満足して帰えっちゃう。不思議なことにジャガイモじゃそういうことはないんだよね。サツマイモはどっかとぼけてるんだよね。ドラマがある。

## ◆屋上緑化

●井上 サツマイモは色々な可能性があつて、今は屋上緑化の研究もされている。芝に比べてヒートアイランド

効果が1.5倍、しかも食べられる。日当たりもいいし、風通しもいい。深さが10cmあればできる。

## ◆よくぞ残った

●井上 江戸時代の文献でも三富は、「本場の中の本場」って言われていたんだ。産地が消えていく中で、三芳が川越いもの産地として残ってくれた。他の産地のイモでお菓子を作るわけにいかないから、川越は三芳に足を向けて寝られない。

これから必ず食糧難の時代がやってくるから、またサツマイモの時代がやってくる。その時、サツマイモの指導者はみんな三芳の人になる。だから、若い人に

誰にでも作れる栽培方法を身につけて磨いてほしい。

## ◆紅赤110年

●山田 今年、紅赤が発見されて110年。「幻のサツマイモ紅赤の再発見」というビデオを制作中。

三芳もビデオの取材で何度か伺っている。9月には、紅赤を発見した山田いちさんのご子孫と北浦和で発表会をする。10月には川越で、そして、最後の11月は、産地の三芳で開催したい。特に紅赤の「芋天ぷら」は美味しい。焼き芋、豚汁、ビデオ上映、井上先生のお話という内容で企画中、是非協力してほしい。

(5月9日サツマイモ資料館にて)